

ミニトマトを作って感じたこと

尾田蒔小学校五年生 島崎 優希

今年の夏も、すごく暑い。私なら外に出るのもイヤなのに、私のおいいちちゃんとおはあちゃんは、あせびっしょりになりながら畑仕事をしていきます。毎日のように畑へ行って草むしりや世話をしたり、休みがあまりなく大変だなあと思いました。

おいいちちゃんの畑では、ネギ・きゅうり・じゃがいも・さつまいも・白菜・大根・ブルーベリーなどを作っています。そのおかげで私は新せんな野菜が食べられるので、うれしいです。

今年もおいいちちゃんに教わりながら、私の大好きなミニトマトを作ってみることにしました。そろそろしゅうかく出来るかなと楽しみにしていたら、何個かトマトかわれていて、シヨックでした。おいいちちゃんから、気温が高かったり、カラカラの土に一気に雨がふるとわれてしまうと聞いて自然のことなので、

私にはどうすることも出来ないの、残念で
した。でも、何とかしゃうかく出来ました。
冷やして食べてみると、すごくあまくておい
しかったです。やっぱり、自分で一生けん命
育てたミニトマトは、最高でした。家族にも
食べてもらったら、
「すごくおいしい。」と言ってくれました。野
菜作りをしている人は、おいしいと言っても
らえるとうれしいから、かんばれるのかなと
思いました。

ニュースで、農家でも高れい化が問題にな
っていることを知ってはいたけど、今年から
おじいちゃんも年であぶないので、お父さん
が代わってトラクターを運転していました。
もし、手伝う人がいなかったら、野菜は作れ
ないので、農家を続けることは大変で、すべ
い事なんだなと感じました。
七月に山形県の大雨で、もがみ川があふれ
て田んぼや畑がダメになってしまったと悲し
んでいる人をテレビで見て、私ちとても悲し

くなりました。私達が、当たり前のよう
に食べている野菜や果物は、当たり前
ではなくて、農家の人達がかんばって
作り続けていてくれるからだと思います。

これからは、なるべく残さないよう
に大事に食べて、ありがたうの気持ち
をこめて、「いただきます」「ごちそう
さま」と言いたいです。

私も、少しでも力になりたいので、
来年もまた野菜作りをかんばりたい
です。